

対馬産 Paraplectana 属の一新種

山 口 鉄 男

A new species of Genus Paraplectana from Tsushima, Japan.

By Tetsuo Yamaguchi

この種は南方系の蜘蛛で、当時対馬久原中学校教諭であった津田美智夫氏が、*Quercus dentata* Thunb. (カシワ)の葉上にいたものを採集し、筆者に標本を提供して下さったものである。ここに同氏並びに文献について色々御世話下さった九大の大熊千代子氏に謹んで御礼を申し上げる。

Paraplectana tsushimensis sp. nov. [PL. 1 Fig. 8]

ツシマトリノフンダマシ (新称)

産地：採集年月日・採集者

長崎県対馬上県久原村 30—VI—1955 津田美智夫採 (Holotype) 1成♀

分類上の位置

Fam. ARGIOPIDAE

コガネグモ科

Subfam. ARGIOPINAE

コガネグモ亜科

Tribe CYRTARACHNEAE

トリノフンダマシ群

Gen. Paraplectana Br. Cap. 1866

サカゲチトリノフンダマシ属

測定 (単位mm)

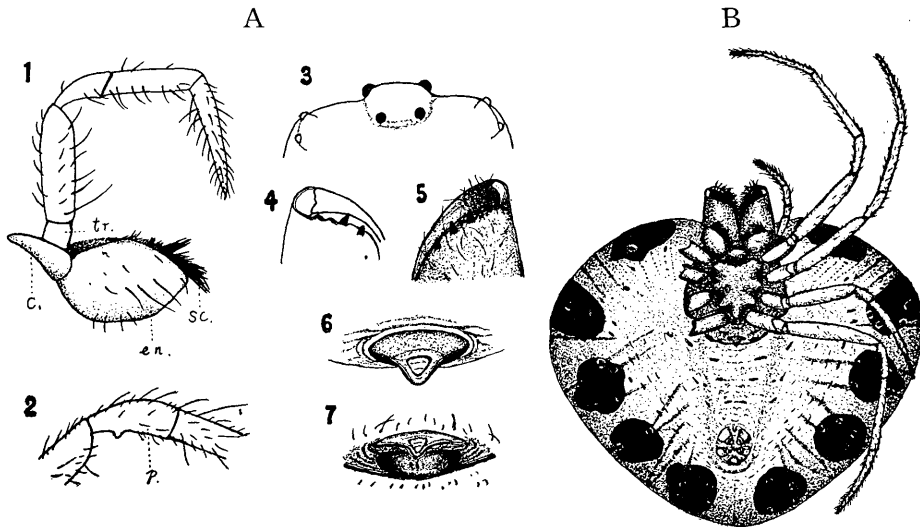
体長 7.0

頭胸部 長さ 2.6 巾 2.3 腹部 長さ 6.2 巾 7.5

	腿節	膝節	脛節	蹠節	跗節
触鬚	0.8	0.4	0.6	—	0.7
歩脚 I	2.3	1.0	1.6	1.2	0.7
II	2.0	0.9	1.5	1.1	0.5
III	1.5	0.6	0.9	0.8	0.4
IV	2.1	0.9	1.4	1.1	0.6

形態 頭胸部は前端截形で後方は円い、その約 $\frac{2}{3}$ は腹部に覆われる。眼域の上部最も高く以下は次第に傾斜、中溝、頸溝、放射溝はいずれも浅い、眼は前眼列、後眼列ともに僅かに後曲する。中眼、側眼ともに隆起上にある、中眼はほぼ同大で後中眼間は前中眼間より狭い、側眼は少々小さい。(図3) **Clypeus**は極めて狭い。上顎前牙堤には3本、後牙堤には2本の牙堤歯が並ぶ。(図4, 5) 下唇はほぼ円形で前端は鈍円をなし数本の粗毛を生ずる。下顎はほぼ楕円形でその前端は鈍く尖り、上縁は平たく、ここに **Scopula** を叢生する。**Pedipalp**の基節は角の取れた長三角形で、転節の附着した部分よりも後方にまで突き出ている。爪はある。(図1) 胸板はほぼ三角形で、各歩脚に接する部分は深い凹みをつくる。歩脚式は1, 4, 2, 3, 各歩脚ともその膝節内側には基部に近く小突起を有する(図2は第3歩脚の **Patella**を示す)

腹部は心臟形で前方は頭胸部に覆いかぶさる。前方から約 $\frac{2}{3}$ の部が最も高くて前後、左右に傾斜する。腹部脊面で最も著しい標徴となるのは黒円紋及び多数の肉点である。即ち中央部4個、周辺部に8個、計12個の黒円紋、中央部に6個、周辺部、亜周辺部に22個の大肉点、24個の小肉点を分布し、周辺部大筋点からは線状紋を出す、中線上には大肉点1個、中肉点2個、小肉点5個があり、脊甲を覆う部分にも4個の大肉点を有する。



図の説明

- | | | |
|------------|-----------|----------|
| A 1. 下顎及触鬚 | 2. 膝節の小突起 | 3. 単眼の配列 |
| 4. 後牙堤歯 | 5. 前牙堤歯 | 6.7. 外雌器 |
| B 腹面 | | |

腹部腹面にもその周辺に10個の黒円紋が並び、（前方の左右各2個の黒紋は脊面の黒紋と連続する）その黒紋内に33個の肉点、黒紋間に20個、計53個の小肉点を有する。これらの肉点は脊面の大肉点に発する流状紋によってつながれている。*Epidynum* はほぼ三角形で、その下面には深い窩がある。（図6, 7）蛛疣は間疣を有し、前、後疣はその先端近接する。中疣は極めて小さい。

色彩 頭胸部と歩脚は僅かに褐色を帯びた黄色、腹部はテントウムシを思わせるような黒味のある赤色で、円紋は濃黒色、大肉点は赤褐色、胸板は黒色である。液浸したものは比較的早く退色し、頭胸部は黄褐色、歩脚は汚黄褐色、腹部も淡赤褐色となる。大肉点の黄褐色及び胸板と腹脊両面の黒円紋は殆んど退色しない。

備考 本種は *Gen. Cyrtarachne* にも似ているが、脊甲の中凸度弱く、腹部の脊腹両面ともその周辺部に多数の斑紋及び筋点を有する点から *Gen. Paraplectana* に入れた。

現在知られている本属の蜘蛛はアフリカに2種、マレイシアに2種、日本に1種（和歌山及び徳島産）の僅かに5種である。本種はアフリカ産の *P. walleri* (Blackwall 1865) にその斑紋等最もよく似ているが、黒円紋、大筋等の数及び分布の状態から明に区別することが出来る。

（昭35・4・30受付）

